

# 小松教育事務所管内 タウンミーティング

11月1日(日) 能美市辰口福祉会館 交流ホール

**子どもたちの生きる力を育むつと い in 南加賀**  
**ー 思春期の子どもに向き合う大人の役割とは ー**



最近の教育を取り巻く環境は、家庭や地域社会の教育力の低下、子どもたちの規範意識や公共心の欠如、児童生徒の学力低下など、様々な教育問題に直面しています。

こうした問題を解決していくためには、学校や教職員が一層の努力をすることはもちろん、県民一人一人が改めて教育問題について真剣に考え、学校、家庭、地域社会が一体となって、子どもたちの豊かな心や健やかな体の育成と確かな学力の向上に努めていくことが重要です。石川県では、教育について県民全体で考える気運を盛り上げる契機として、11月1日を「いしかわ教育の日」また、教育の日にふさわしい取組を集中的に展開する期間として、11月1日から7日までを「いしかわ教育ウィーク」と定める条例を平成17年3月に制定しました。

(いしかわ教育の日～学校・家庭・地域社会のさらなる連携に向けて～ より)

さて、社会環境の変化の中で、子どもたちが抱える問題や悩みは多様化・深刻化しています。また、小学校の中・高学年以降は思春期特有の心の不安定さや対人関係の変化などから、友人関係の悩みや自立をめぐる親子間の葛藤などの問題に向き合わなくてはならない時期でもあります。子どもたちが日常生活において接する機会が多い大人は、親と教員であり、子どものわずかな変化や抱えている悩みを見逃さず、子どもの表面的な言動や態度の背景にある要因を理解し、不安定な心に寄り添いながら関わっていくことが求められます。

今回のタウンミーティングでは、現代の子どもたちの特徴や行動の背景となる心理を理解し、望ましい向き合い方や問題に対する解決のポイントについて、参加者の皆さまとともに考える機会をもちました。

◇ 開会挨拶

石川県教育委員会小松教育事務所 所長 向出 章

◇ 講演

## 「思春期の子どもに向き合う 親のかかわり・教師のかかわり」

金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 原田 克巳 氏

～講演より～

私たちが子どもにかかわるとき、それぞれが生きた時代の価値観、家庭の価値観の影響が現れます。たとえば、マンガ・アニメ評論家の岡田斗司夫氏は、下の表のように今の若者の感性を分析しています。このように、私たちが当たり前になっている感覚が、子どもたちには当たり前の感覚ではなくなってきているということを、私たちは感じ取りながら子どもたちにかかわる必要があるのではないのでしょうか。また、思春期にある子どもたちはそれまでの育ちがあって今の姿を見せています。これまでの子どもの育ちと自らのかかわりを見返してみて、今日の前にいる子どもの姿を見直してもよいのではないのでしょうか。



ジャンプ脳	ラノベ(ライトバル)脳
努力	ハタシ&チート
友情	モテ・ハーレム
勝利	感動・感謝

できないのは  
頑張っていないから

頑張らなくても  
認められる、褒められる自分

**乳幼児**逃げ帰る場所があるからこそ、冒険に出ることができます。

共感してくれる人、癒してくれる人、甘えさせてくれる人がいてこそ、心に力がついてきます。

**小学生**できる・できないではなく、一緒にいられること、出会えたことを大事にしましょう。

子どもを自分の願いをかなえる道具にしないようにしましょう。

**中学生**全人的存在として向き合しましょう。

I（私）メッセージで答えよう。

子どもが何才であっても、ほめること・認めること・労うこと・楽しみや喜びを分かち合うことが大切です。

- ・人は誰でも、自分の心を強く持つためには、周りの人からの温かい眼差しを受け取る必要があります。
  - ・人から温かく迎えられることによって、ありのままの自分を引き受けられるようになります。
- そのことが、周りの人への優しさにつながります。

学校は Doing 評価 ⇔ 家庭は Being 評価  
(できたこと・したことを評価) (存在そのものを評価)



家庭も学校も子どもを育てる仲間です。気持ちや考えを伝え合って、  
ともに子どもの育ちを支えましょう



～参加の皆さまからの感想～

- ・子どもをとりまくアニメやゲーム環境について初めて知ることが多かった。これからますますその環境は変化していくと思うが、やはり根本として大切なことは人とのつながり方、接し方、関係の持ち方だと思った。誰に対しても、ほめること・認めること・労うことを忘れず、楽しみや喜びを分かち合っていきたいと思った。
- ・学校社会はそもそもジャンプ脳における価値観が大切にされてきた。今もそれを集団生活の目標にしている。一方、ラノベ脳で育った今の子どもたちとの間に価値観のギャップがあるとお話を伺って改めて感じた。実際に自己肯定感が低い生徒が増えたような気もするが、そういった育ちの影響が大きいのかとも感じた。
- ・子どもたちにとって逃げ道となる存在になるというのは、なるほどなあと感じた。子どもの挑戦は、それを見とってくれる大人の存在が大切で、学校でも全く同じだと思う。そのときに、成果だけを求めるのではなく、失敗や衝突も受けとめるという意識はもっていたい。Beingの評価という言葉が心に残った。明日、子どもたちに「今日も元気に来てくれてありがとう。」と言いたいなと思った。
- ・原田先生のお話の中に「甘えさせることは 心に力をつけること」とあった。「心に力をつける」大切なことだと思う。今、心が元気じゃない子が多くいる。そのことに本校の職員と共に向き合っている。そして、その保護者の悩みにも向き合う日々。思春期の子どもに向き合う教師としての関わり方を今日は学ばせていただいたが、教師として、悩む保護者への関わり方についても教えていただけたらと感じた。
- ・自分ばかりが疲れて大変だと思っていたことが多々あるので、子どもたちも朝から晩までがんばっていることを認めてあげることで少しずつでも変われると思った。